

## 第4回当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会 会議要旨

- 1 日 時 平成27年8月26日(水)10:00~12:00
- 2 場 所 当別町役場 1階 大会議室
- 3 出席者 山田委員長、黒澤副委員長、川村委員、広部委員、中家委員、南部委員  
伊藤委員、笠松委員、谷村委員、田辺委員
- 4 説明員等 二木部長、長谷川課長、小畑係長、樺澤主事
- 5 傍聴者 4名
- 6 会議要旨

議題 総合戦略策定に向けた施策の検討

< 前回委員会での委員の発言に対する対応(委員の発言は第3回のものを要約) >

### 【広部委員】

- ・中学生のアンケート結果で、半分の人が将来は町外に出ていくと回答していることに対して、その理由を直接中学生に聞く場というものを町として機会をつくってみてはどうか。

### 【事務局説明要旨】

- ・町内にジュニアリーダーという中高生等で組織される団体があるので、そこに対して意見聴取を行ったところ「できれば町内に住んでいたい」という希望はありつつも、雇用場所や交通の利便性の関係で町外に出る意向の人が多かった。逆に、雇用場所や交通の利便性が確保されるのであれば町内居住意向は高かった。交通の利便性については、JR駅までの交通アクセスが悪いといこと、部活帰りの時間帯や土日の昼の時間帯の便数が少ないことなどがあげられた。その他、校舎が古いこと、公園遊具が少ないことや使用禁止となっていて使えないこと、文房具や服を買う場所がないこと、CDやDVDレンタルショップが充実していないことなどがあげられた。

### 【伊藤委員】

- ・町民アンケートの結果について、具体的にどう対応していくか考えていく必要がある。すぐに対応できるものと、対応に時間のかかるものがあると思うが、アンケート結果に具体的に解決していく手立てを同時並行で進めていかないと、人口を2万人に戻すといっても厳しいのではないかと思う。

### 【中家委員】

- ・それぞれ個別の課題に対してピンポイントの施策を作っていくことが、抜本的な問題の解決になるのか疑問に思う。そこからは人口減少を食い止めるという素晴らしい施策というものは出てこないと思うし、1つの項目について解決するというのを繰り返していくと、膨大なピンポイントの解決策を生み出すことになる。

#### 【南部委員】

- ・町民アンケート結果から見えてくる、当別町の弱みである「不便さ」というようなことが価値と思える人たちをどのようにして集めてくるかが重要だと感じている。

#### 【事務局説明要旨】

- ・町民アンケートの結果から見えてくる町の課題をひとつひとつ対応していくことについては、今後の潜在的な転出者の抑制につながることや、一般的な町民（不便さを不便と感じる方）の居住環境の改善につながることから、何かからやるのか、どの程度やるのかという議論はあるとしても、可能な限り丁寧に対応していきたいと考えている。ただし、こうした課題の解決が、町の魅力の創出とそれによる人口増加という「地方創生」につながるかということについては弱い部分もあるので、スウェーデンヒルズ地区や金沢地区といった人口が増加している地区の取り組みにならない、それを強化していくとともに、町全体として魅力創造、地方創生につながるものを、今回資料でお配りした総合戦略（素案）のプロジェクト単位なのか、あるいは総合戦略（素案）全体を通しての考え方としてなのか、いずれの形であっても、総合戦略に盛り込んでいきたいと考えているので、忌憚のないご意見をいただきたい。

#### < 議題に対する質疑等 >

#### 【川村委員】

- ・農業産出額 100 億円について、なぜ 100 億円なのかという論拠が必要ではないかと思う。
- ・土地利用再構築プロジェクトについて、法規制等により難しい部分もある中で、ここまで記載してよいか疑問に思う。

#### 【事務局】

- ・現状、農地の部分を非農地化していくことについては、農業振興地域の農用地であることから、厳しいのではないかとのご指摘はその通りだと考えている。ただし、国道 337 号という北海道の産業の基軸となる道路が 4 車線化されて、当別バイパス部分についてはそれがもうすぐ完成ということで、本町としても産業の強化につなげるために、基幹産業である農業を中心に農産物の加工製造・流通販売の起業、あるいは企業誘致によって雇用を創出し定住化に結び付けていきたいと考えている。ただ、これが 5 力年でどこまでできるかというところは、時間的に非常に厳しいと感じているけれども、2040年、2060年を視野に入れた総合戦略を作る際には、厳しいながらもこうしたプロジェクトを持つべきであると考えているところ。

#### 【川村委員】

- ・国道 337 号沿線の土地利用の見直しの方向性については良いと思うが、権限が委譲されても市町村が独自に農地転用できるわけではないので、関連法令も含めて変

わっていかないとこのプロジェクトは実現しないので、農業委員会を含めて関連部局と連携を密にしてやっていただきたいと思う。

#### 【谷村委員】

- ・今年度、国道337号の当別バイパス部分が完成するという事で「できた感」が前面に出た表現になっているが、江別から長沼の間はこれから整備していくという事で、まだ伸びる可能性があるという雰囲気を出してもらったほうが前向きな感じで良いのではないかと思う。
- ・当別町「道の駅」プロジェクトについて、総合戦略上の記載の表現はこれで良いのかもしれないが、例えばターゲットをどうするか、農産物の供給体制といっても人員体制なのか、それとも在庫管理的な意味合いなのか、そういった具体的なイメージを持って、それに近い表現に変えるといったことも必要だと思う。
- ・総合戦略の期間が平成31年までの5カ年としながらも、農業「10年」ビジョンとなっていたり、意思決定されている道の駅でも開業まであと2年かかってしまうという事で、この5年間という期間にどれだけこだわるのかというところが見えてこない。これだとKPIの設定も難しいのではないかと思う。

#### 【事務局】

- ・道の駅に関しては、国土交通省から重点道の駅に選定され、その時にターゲットや実際の施設づくり等を整理したものがあるので、後ほど皆様方に資料等を提供するのでご承知おきいただきたい。
- ・道の駅での農産物販売に向けた供給体制の構築という部分については、冬期間の販売をどうするかという大きな課題があるが、現在、役場、JA、商工会、地元金融機関等で管理運営主体の立ち上げに向けた勉強会を重ねているところ。この辺の整理は道の駅の開業前までに法人の立ち上げも含めて整理をしていく。
- ・5年間という期間にどれだけこだわるかという部分については、内閣府から示されている当面の戦略はまず5カ年をイメージしつつも、2040年、2060年といった長期の展望も持って作っていくという事で、私たちも苦慮しているところ。人口目標を2040年に2万人とした場合に、今からプロジェクトを掲げて着手し始めなければならないが、それらは当然5年間で完了するわけではないので、中には調査研究段階から着手するものもあり、非常に整理しにくい部分もある。現時点では基本目標の数値目標やKPIについて年度バラバラであるが、PDCAサイクルによって毎年の見直しをかけていくものであるという事で、そういう中で5年間という期間の部分は整理していきたいと考えているので、今回の策定にあたってはこういう形にならざるを得ないというところをご理解いただきたい。

#### 【中家委員】

- ・企業誘致の観点からは、国道337号沿線の農地を非農地化し、そこに企業を誘致していくという事で、これは基盤づくりや営業力といったところで、決して止め

ることなく進めるべきことかとは思いますが、一方でやはり基幹産業が農業であって、その農業の従事者が当別町でどういった未来に向けた新しい農業の取り組みをしていくのかということが重要だと思う。例えば余市のOcciGabi(オチガビ)さんがA-FIVEといった新しい国のお金を投入して、非常に成功したワイナリーを作っていて、私も独自のそういったワイナリーとかクラフトビール化の新しい高単価商品を生み出す取り組みをしようと考えている。それが当別の観光の拠点になって、来訪者の増加につながれば良いと思う。産業がいま求めていることと、それを作ることができる農業の力をマッチさせるために当別の中でそうした産業を育成していくということも重要な要素であると思う。

#### 【伊藤委員】

- ・ 4ページの課題の要因のところ、交通アクセスは充実してきているが、それに伴う新しい人の流れを町に呼び込めないということが書いてあり、これは認識が違ふと思う。交通アクセスが良くなれば行きたい所に行ってしまうので、現状が当然であるという理解をしたほうがよいと思う。これまでも高速道路やバイパスが出来たことによって便利になればなるほど、そこに住んでいる方が行きたい所へ出て行ってしまっただけで空洞化になっている。これまでの歴史的に見てもそうなっているので、交通アクセスが充実したから人が来るということではなくて、むしろ魅力のあるところに出て行ってしまふのが現実だと思うので、ここは認識が反対なんじゃないかと思う。
- ・ 「農業10年ビジョン」推進プロジェクトについては、地元の農産物を売ることと、加工やブランド化といった内発的な産業振興に取り組んでいくことが重要だと考える。当別町は農業従事者の高齢化や後継者不足の問題もあると思うので、当別町も参加をしている北海道農業担い手育成センター等と連携して人材育成にも力を入れていくのが良いと思う。道内でも市町村単独でそういった取り組みに力を入れている自治体もあるので参考にしてみてもどうか。
- ・ 企業誘致プロジェクトについては、地方拠点強化税制の記載があるが、これは当別町だけではなくて全道の自治体が同じ効果を受用することになるので、そういった中でどうやって当別町の魅力を外に発信していくかということが重要だと思う。また、外資系の企業誘致については、道内で外資系の企業を誘致した事例がほとんどないことから、そう簡単にいくものではないので、土地利用も含めて覚悟をもったことをやらないと難しいと思う。今後の事業展開のところでは、首都圏の企業訪問ということが書かれているが、これもやらないよりはやったほうがいいが、受け皿の整備がないと無理だと思う。テレワークについても、光ファイバーのインフラ整備が必須であるので、そういうインフラが町内に整備されているのかどうかということが問題になってくる。現実問題として当別町には工業団地がないので、企業誘致に向けては中長期的に工業団地を造っていかないと難しいと思う。なぜなら道内

には分譲中の工業団地が約100カ所あって、そこでの競争になるので、まず工業団地という企業が進出をする受け皿というものを作っていったほうがいいのではないかと思う。あとは町がきちんと方針と覚悟を持って取り組むかどうかということ。併せて企業誘致をするために当別町の最大のネックになっているのは農地で、これを転用できるかどうかの問題。地域再生法でやるのか、あるいは特区でやるのか、いずれにしても農地を転用すると逆に農地は減ることになるので、農業振興とどう両立させていくのか、そういったところを町の中でいろいろと議論をして、覚悟を持ってやられたほうがいいのではないかと思う。それから、電気、ガス、上下水道、通信といったインフラ整備を誰がやるのかも考える必要がある。そうした企業誘致の受け皿づくりは、素案の中では土地利用再構築プロジェクトということで、まさしくこういった土地利用も含めてやっていくと良いと思う。そういう中で、まずは中長期的に工業団地の整備をする、しないに関わらず、当面どういうことをやっていけばいいのかということについて、例えば地域再生計画を策定し認定を受ければ、補助対象財産の転用承認手続きの特例を受けることができる。また、転用した土地の使い方については、例えば植物工場の誘致であれば北海道の支援制度があるので、そういったものの確認が必要。一方、企業誘致というのは難しいので、企業を育てるという観点からインキュベーション施設のようなものを町で作って、そこに企業に入ってもらって将来の中核企業になるよう支援していくといったことも考えられる。最後に、企業立地促進法という法律があり、当別町は道央札幌地域ということで基本計画の国の同意を得ていて、札幌、江別、恵庭、北広島、当別、新篠津の4市1町1村において、集積業種として「食料品関連産業」「物流関連産業」「環境エネルギー関連産業」を重点的にやっていくことになっている。こういったものも活用してはどうかと思う。

- ・ 商工業活性化プロジェクトについては、産業競争力強化法に基づき市町村が創業支援計画を策定して認定を受けると、その認定を受けた地域で起業する方に、上限200万円程度の創業補助金というものを活用することができる。ただしこれは産業競争力強化法の認定を取った地域での起業が対象となるので、当別町はまだ認定を取っていないことから、こうした国の制度もどんどん活用して企業誘致に向けた環境整備をしていくのが良いと思う。
- ・ 土地利用再構築プロジェクトについては、企業誘致と農業の振興という両輪を回して、これからの20年、30年先の当別の産業をどのように進めていくかという非常に重要な問題だと思しますので、ぜひこれは町の中で企業誘致に向けて覚悟を持って進めていただきたい。

#### 【事務局】

- ・ 工業団地の関係については、将来的な事業費も含めて検討していかなければならない部分があるので、気持ちとしてはやらなければならないとは思いつつも、要検討

とさせていただきたい。ただ、総じてご意見のあったところについては戦略に盛り込んでいかなければならない部分だと感じているので、可能な限り記載させていただく。また、支援制度の活用についてのご意見もいただいたので、記載内容について検討させていただく。

- ・土地利用に関しては、行政が覚悟を持ってというご意見は、まさにその通りだと思っている。そしてインフラ整備を誰がやるのかというところがまさに頭を使うところで、繰り返しの説明になるが、国道337号沿線は農業振興地域の農用地となっていることから、その転用には個別具体的な事業プランがないと除外はできないこと、また、転用する農地の代替性の確保といった要件を全て合致しなければ転用ができないということで、この部分は規制緩和がされていないので、町が工業団地をプランニングしたとしても、団地を造っただけでどういった企業が来るかという具体性、具体計画がないことを指摘されてしまう。この部分は現状として打開策が見いだせていない部分であるが、ひとつずつ課題を整理して、戦略の中に書き込める範囲の中で書き込んでいきたい。

#### 【川村委員】

- ・農協としても今年度中に中期計画を立てなければならないので、この総合戦略の内容とリンクさせて、農協の運営に反映させていかなければならないと考えている。そこで、具体的にどういうことをやるのかということも整理してもらえるとわかりやすい。実行力のある内容にするためには、中長期のロードマップが必要になってくると思う。

#### 【事務局】

- ・農業10年ビジョンについては、この3月に有識者の会議を踏まえて策定したと理解しており、当然、総合戦略に盛り込むべきプロジェクトと考えているが、ビジョンの中には目標値はそれぞれ書かれているものの、それを実現させるための方策についてはこれからの作業というふうに捉えていたので、戦略にどう記載するかという議論もあるが、逆に町経済部、JA、農業関係団体の方々がこれから実現方策を練り上げていく中で、それを総合戦略に入れ込んでいきたい。ただ、現時点でこの素案に掲げられていることと齟齬がある部分があるのであれば、それは修正を加えていきたいと考えている。

#### 【黒澤副委員長】

- ・道の駅にしても企業誘致にしても、基盤となるのは農産物であるので、農業をブランド化していくことが基礎になってくると思う。そのため、当別町としてどういう作物をブランド化するかということや、全国に発信できるような農産物を作っていくことが必要だと思う。
- ・近年、金時草（加賀野菜）を作る取り組みがあるということで、北陸と北海道で日照時間が全然違うことから、当別で作ると抗酸化作用が非常に大きい食品ができる

ということで、こういった立地の特性等を研究材料として、当別町独自のものを育てていく取り組みがあってもいいのではないかと思う。

【事務局】

- ・農産物のブランド化については、当別は農産物の種類は多いが特定の農産物に特化しているわけではないので、今、金時草というお話があったが、他に考えられるものとしては亜麻があげられる。実際に亜麻仁油のドレッシングを商品化して販売している民間企業もあるので、行政としてどこまで支援というか下支えをしていけるのかというところは常々考えているところ。

【広部委員】

- ・まさに金時草や亜麻といった草の根レベルの取り組みがあるのであれば、それを活かした取り組みを戦略に盛り込めたら良いものになるのではないかと思う。
- ・企業誘致プロジェクトについて、具体的に何をやるのかというところが見えないのが正直なところで、例えば食品製造業を誘致するために何をやるのかという具体的な事業を書いたほうがいいのではないかと思う。そうしないと絵に描いた餅になってしまうのではないか。
- ・伊藤委員に質問だが、産業競争力強化法に基づく創業支援計画の認定は年に何回程度あるのか。

【伊藤委員】

- ・年に期間を決めて数回行って、現時点で5回目くらい。

【広部委員】

- ・他の市町村でもそうだが、創業支援をやるといいながらも、国の創業補助金を受けるための認定を受けていない自治体が多い。

【伊藤委員】

- ・経済産業省だけではなくて、総務省もいろいろと力を入れてやっているのだから、そのあたりも確認したほうが良いと思う。
- ・創業支援計画についてはそこまでハードルが高いものではなく、当別町は商工会が経営発達支援計画の認定を受けているので、その中には創業の関係も記載があると思うので商工会と連携して取り組んではどうか。

【広部委員】

- ・ぜひそういうところも含めて具体策を出していただきたい。商工業活性化プロジェクトの中には金融機関との連携ということもあるので、私どもも一緒にやれるような事業があればここに書き込んでいただくというようなこともいいと思う。

【田辺委員】

- ・KPIの設定の仕方について、総合戦略の期間が5カ年ということで、人口ビジョンの2040年や2060年の姿にするために当面5カ年は何をすべきかということを経営戦略に書き込むことが必要であって、そこで設定すべきKPIというのは、

当面5カ年の目標でなければならないと思う。現状は目標の期間がバラバラで、当面5カ年でどういう考え方を持っているかがよくわからないので、整理したほうが良いと思う。「農業10年ビジョン」推進プロジェクトについても、10年を期間としつつも、戦略上は10年後の姿を実現するために当面5カ年は何をするかを書いたほうが良いのではないかと。

- ・土地利用再構築プロジェクトについて、基幹産業である農業を活かす産業の集積というところを念頭に置いて既存の土地利用を見直すということであれば、土地利用の再構築というのは手法でしかないので、企業誘致プロジェクトの1つの手法として土地利用の再構築をやるという書き方のほうが馴染むのではないかと。
- ・「農業10年ビジョン」推進プロジェクトについて、今後の事業展開のところで女性・高齢者の能力発揮対策とあって、農業の話だけではないが、女性を呼び込むような起業支援策をぜひやっていただきたい。当別町は札幌市に近いということもあって、札幌市には非正規雇用の女性が非常にたくさんいて、非正規雇用であることからなかなか将来の展望が見えない若い女性も多く、そういった方々が当別町に目を向けるような施策を展開できれば、札幌市から当別町で仕事をしようという女性が入ってくるのではないかと。そもそも札幌市には30代の男性が少ないという人口動向があるので、できればまず起業のターゲットとしては女性が有力ではないかと思っている。

#### 【事務局】

- ・土地利用再構築プロジェクトの目的について今一度整理するとともに、企業誘致プロジェクトの1つの手段という意味合いもあるので、その辺の書き方や見せ方については事務局で整理させていただきたい。

#### 【笠松委員】

- ・私も戦略の期間と数値目標とKPIについては目立つ部分でもあるので、揃えたほうが良いと思う。また、年度だけではなくて数値目標とKPIの関連性についても整理されたほうが良いと思う。
- ・総合戦略の位置付けについても整理されたほうが良いと思う。戦略の中にいろいろと施策を盛り込んでいくことはできるのかもしれないが、目標を設定する戦略というものもあるので、具体の方策としてこの委員会で出たものを全て盛り込んでいくということになると收拾がつかなくなるのではないかとも思う。まず事務局として戦略自体の位置づけを明確化し、それによって目標を設定する戦略にするのか、具体の施策を盛り込んでいく戦略にするのか、あるいは川村委員の意見にあった工程表についても記載するものなのかどうか、そういったところを整理し、それに応じた表現や書き方にしたほうが良いのではないかと思う。
- ・総合計画と総合戦略の関係性について、今すぐではなくて良いので整理したものを示してほしい。



#### 【事務局】

- ・ 期間、数値目標、K P Iの整理については、改めて庁舎内で検討し、調整する。
- ・ 総合戦略の位置づけの明確化については、先般、役場の幹部職員による政策調整会議の中でも、この戦略はあくまでも具体的な推進計画ではなく方向性を示す方針的なものにならざるを得ないという意見が出ており、事務局としても総合戦略は方向性を示すもので、具体的なものについてはそれぞれ個別にプランやプロジェクトを別途作成することになると考えていたところ。
- ・ 総合計画と総合戦略の関係性については、総合戦略で掲げているプロジェクトやその方向性については総合計画の方向性と一致し、全て包含されているという整理となっている。ただ、総合計画の中ではここまで具体的なプロジェクトまで記載されているわけではないので、総合計画より若干具体的な方向性を示しているのが今回の総合戦略と理解していただければ良いと思う。

#### 【南部委員】

- ・ 今の段階では、素晴らしい戦略を策定していくことを目的としているが、そもそもそれを実行して成果を出すことが目的であると考えているので、実行段階になるのはこの先になるかとは思いますが、この戦略の各プロジェクトが当別町でなくてはならないという確固たる理由のあるコンテンツを持つか持たないかということが非常に大きなポイントになると考えている。前例に基づいて、良い成果が出ているものを参考にしてやっていくことについて否定はしないが、当別町が直接目的となるコンテンツを持つかが重要で、それを達成させるためのストーリーと、そのプログラムをどこに盛り込んでいくかということが全てのプロジェクトにおいてポイントになってこないか、当別町である意義と目的も含めてやる意味がないのではないかと思う。この委員会の委員は、事務局を別にすると実行責任のない人の意見なので、実効レベルでやっていく視点を持ったうえで、良い絵を描く方と、それを実行責任を持って具体的にアクションを起こしていくところのパートナーシップを別に持ってやっていくのが良いのではないかと思う。良い絵は描けても実行に移せないというのがよくあることなので、どう実行していくかというところにエネルギーのシフトをしていけば、この資料の精度についてあまり時間をかけなくて良くなる。この戦略作成にあたって大事なことは、実行責任を持ったうえで、当別町でなければならない意味と、きれいな設計図の書き方の議論ではなくて、その次のステップが本来協議すべきことではないかなというふうに思う。

(以 上)